

かわばた
河端

ごうん
五雲(1699~1772)

俳人。松山藩士。松山城下(現、松山市)出身。本名は氏房。若くして松山松平家第5代藩主・松平定英の御側役となり、享保年間には江戸詰となって常府の番頭といった重職にも就いた。江戸勤務の余暇に、蕉風復興を唱えた佐久間柳居より俳諧を学んだといわれ、中山更互、小倉志山らとともに、松山初期俳壇の中心人物であり、俳壇の発展に貢献した。句集『矢立の露』、『大名竹』に彼の句はまとめられている。

略歴

元禄12(1699)年	松山藩士の家に生まれる。
正徳3(1713)年	藩主・松平定英の御側役として、仕え始める。
享保8(1723)年	江戸詰となり、奉行用人・徳川家献門方などを歴任し、俸禄500石を支給される。 この江戸詰の間、佐久間柳居に俳諧を学ぶ。
延享元(1744)年11月	小倉志山編『俳諧霜夜塚』刊行。五雲の句が収められている。
宝暦元(1751)年 10月	江戸常府の番頭となる。 久万地方の俳諧の中心人物であった佐伯寿風の追悼集『十夜の霜』刊行。五雲による序文が載せられている。
明和6(1769)年	帰郷して俳諧を指導。帰郷に際し、俳友・門弟たちにより送別の句会が催され、その時の句を息子が編集し、『矢立の露』として刊行
安永元(1772)年 12月23日	明和8年からの句が、『大名竹』として編集され、刊行される。 74歳で永眠

〈関連図書〉

- ・景浦勉『伊予俳諧史』 伊予史談会 1958年
- ・星加宗一『愛媛文化双書23 伊予の俳諧』 愛媛文化双書刊行会 1975年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』 愛媛県 1984年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年